

平成30年10月23日

釜石市議会議長 佐々木 義 昭 様

会 派：民政クラブ
代 表 遠 藤 幸 徳



「 会 派 視 察 報 告 書 」

21世紀の会・民政クラブ所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 【視 察 項 目】

- (1) 千葉県 山武市 (8月23日 (木))
「タブレット端末の導入」について
- (2) 神奈川県 鎌倉市 (8月24日 (金))
「長寿社会のまちづくり」について

2 【視 察 日 程】：平成30年8月23日 (木) ～ 平成30年8月25日 (土)

3 【参 加 者】

- (1) 「21世紀の会」
 - ・ 木 村 琳 藏 (代 表)
 - ・ 佐々木 義 昭
 - ・ 後 藤 文 雄
 - ・ 千 葉 榮
- (2) 「民政クラブ」
 - ・ 遠 藤 幸 徳 (代 表)
 - ・ 松 坂 喜 史



4 【相手方】

- (1) 千葉県 山武市議会事務局（千葉県山武市殿台296）
- (2) 神奈川県 鎌倉市議会事務局（神奈川県鎌倉市御成町18-10本庁舎2階）

5 【研修概要】

(1) 研修日及び研修課題

- ① 平成30年8月23日（木）（千葉県山武市）
 - ・午後2時00分～午後4時00分
 - 「タブレット端末の導入」について
- ② 平成30年8月24日（金）（神奈川県鎌倉市）
 - ・午後1時30分～午後3時30分
 - 「長寿社会のまちづくり」について

(2) 視察先対応者

- ① 千葉県山武市
 - 「市議会議員」
 - ・小川良一議員（議会改革特別委員会委員長）
 - 「議会事務局」
 - ・小川恵計 事務局長
 - ・川嶋洋子 副主幹
 - ・石田純一 議事係長

- ② 神奈川県鎌倉市
 - 「議会事務局」
 - ・大隅啓一事務局長

「健康福祉部 市民健康課」

- ・石黒知美 課長
- ・浦山美紅 管理栄養士

「健康福祉部 保険年金課」

- ・森 啓匡 課長

(3) 視察に取り上げた理由

① 《山武市》

議会にタブレットを導入する議会が増えており、導入の効果はペーパーレス化や情報の共有、経費節減などいろいろ注目されております。その他、業

務の効率化の効果が図られることから、今後の政務活動及び議会改革の課題として視察項目に取り上げた。

② 《 鎌 倉 市 》

少子高齢化が加速的に進む中、当市では三大疾病の中でガン年齢死亡率は岩手県内で男子ワースト1、女性でワースト2であり、心疾患死亡率はワースト3、脳血管死亡率ワースト1という状況であり、その対策として、特定検診結果から判定評価の低い人には結果説明会及び保健指導を実施、また、栄養士による食事療法指導や運動教室等を行っている。

平成28年の健康福祉年報では、前年対比での三大疾病による死亡率は総数ポイントの減少は見られるが、実状では未だに県内ワーストのレベルにあります。

そこで、今回、人口の違いはありましたが、健康づくりの先進地である、神奈川県鎌倉市の「健康づくり計画の施策」を参考にし、議会としても、当市の高齢者及び疾病を持った方々に人生のサポートを致したいと考え、視察項目に取り上げた。

6 【 研 修 内 容 】

◎ 《 山 武 市 》 (8月23日 (木))

「午 後 2時00分 ～ 4時00分」(タブレット端末の導入について)

ア 「開 会」

小川議会事務局長の進行で開始した。

まず、視察先の歓迎の挨拶・概要説明

イ 小川良一議員 (議会改革特別委員会委員長) 挨拶

ウ 山武市から研修事項の説明概要 タブレット端末の導入における諸課題について

(※ タブレット端末の導入の経過と目的)

(※ タブレット端末導入経費)

(※ タブレット端末の仕様基準)

(※ タブレット端末の導入効果と今後の課題)

エ 概要説明 川嶋議会事務局副主幹

タブレット端末の導入における諸課題について

タブレット端末の導入の経過と目的・タブレット端末導入経費・タブレ

ット端末の仕様基準・タブレット端末の導入効果と今後の課題について、事前に配置されたタブレット端末を使用し、別添配布資料(山武市、タブレット端末の導入について)をもとに研修項目を説明した。

また、操作方法についてのレクチャーを受ける。

7 【主な質疑応答】

Q：タブレット端末の導入にあたり議員の取り組み状況はどのようなでしたか。

A：当初は戸惑いもありましたが時間の経過とともに使用が順調になりましたが、努力はしたが利用不可なベテラン議員もおおり、他の連絡方法や紙対応で取り組んでいる。議場においては、全員タブレット対応としている。

Q：一般質問の質問事項について、タブレット端末を使用しているのですか。

A：個人情報等に係るもので、それらは、個人のパソコンメールで対応しております。

Q：タブレット端末の導入あたり、費用対効果が問われるが。

A：経費削減効果は、資料に示す通り、145千円、ペーパーレス化の削減は年間11万枚から13万枚である。金額に換算できない業務もあり、その部分の効果が大きい。

Q：タブレット端末を導入して、1年後の議会の状況は。

A：タブレット端末、1年後の変化は大きく変わることは無いが、年を増すごとに効果が現れた。使用頻度により格差が現れてきている。議員活動に積極的に活用して頂きたい。

Q：タブレット端末の利用にあたり庁舎外の持ち出しについて。

A：端末機使用の基準、使用範囲等を別添資料の通り定めており、議員の責任で対応している。

Q：今後、タブレット端末を利用し完全なペーパーレス化に移行するのですか。

A：期待するが、予算書及び決算書のペーパーレス化は難しいですね。この案件をクリアできれば効果が倍増すると思います。

Q：タブレット端末を職員全員の使用の考えは。

A：市の執行部と議会関係だけで対応する方向です。

Q：タブレット端末を導入後、議会の在り方に大きな変化はありましたか。

A：議会とすれば大きな変化は感じられないが、IT化は時代の流れであり元に戻ることはないと思う。

Q：タブレット端末の使用方法で、防災・減災・事故等の相互の情報伝達に対応できますか。

A：利用は可能ですが、そこまで対応している議員は少ないのが現状です。

Q：タブレット端末の操作研修会実施状況について。

A：必要に応じて実施している。端末の操作からスタートし、練習、訓練を重ねた熟度を増した。来年は議員の改選期であり新たな対応も考慮する。

8 【行政視察所感】

議会のICT化（タブレット端末導入）について、先進地の運用状況を視察しました。導入により業務の効率化が図られ費用対効果も好評であることから、新庁舎建設計画もある当市において、Wi-Fi環境を整備し、議会のICT化を図ることも時代の潮流であると思います。また、ペーパーレス化及び情報の共有化により業務の軽減、削減をはかることが可能となる。また、政務活動の充実が期待できることから、是非、取り組むべき課題と感じ、有意義な視察でした。

◎《鎌倉市》（8月24日（金））

「午後1時30分～3時30分」（長寿社会のまちづくりについて）

ア 「開 会」

大隅議会事務局長の進行で開始した。

まず、視察先の歓迎の挨拶後、木村林蔵代表がお礼の挨拶をした。

イ 長寿社会のまちづくりについて及び概要説明

長寿社会のまちづくりについて、別添資料により説明を受ける。

① 平均寿命・健康寿命の研修内容（別添資料のとおり）

・年齢調整死亡率・早世の状況及び国保データベース健康寿命について

・健康寿命延伸に向けた取り組みについて

（石黒知美 課長説明）

③ 適切な運動について・適切な食生活について

（浦山美紅 管理栄養士説明）

④ 生活習慣病に係る医療費について・医療費の疾病別割合について
(保険年金課 森 啓匡 課長説明)

9 【主な質疑応答】

Q：平均寿命・健康寿命が全国的に上位であるが、特別、取り組んでいる事が有るのか。

A：「健康」であることは大事な要素の一つです。そのためには、市民一人ひとりが、自分のからだや心に目を向け、健康づくりに取り組むことが必要になります。
そこで、当市は、その取り組みを関係機関等連携しながら、支援していくために、健康づくりの指針・行動計画となる「鎌倉市健康づくり計画」を策定し取り組んでおります。

Q：生活習慣病に係る医療費について、当市では、高齢者人口の増加に伴って、増加傾向にあるが、貴市の状況は。

A：鎌倉市国民健康保険被保険者の総医療費は、年々、増加しており、平成25年で約8億9千万円となっております。そのうち、生活習慣病に係る医療費は約半分を占めており、その割合も増加傾向にあります。高齢者人口の増加に伴って、今後もさらに増加することが予測されています。

Q：医療費の疾病別割合はどのようになっているのか。

A：平成25年は、「がん」23.7%・「精神」17.0%・「筋、骨格」15.3%・「高血圧症」9.6%・「慢性腎不全（透析有）」8.8%・「糖尿病」8.3%となっております。

Q：健康寿命は、市民一人が努力をしないと延ばすことが困難だと思いますが、貴市では市民が関心を持ち参加してくれるような取り組みをしているのか。

A：健康づくり・みんなでサポート・主役はわたしと言うことで、「一人ひとりができること」・「みんなでできること」を課題として、例えば、近所で、おはよう、さようなら、いただきます、ごちそうさま、ありがとう。そして、近所で知っている人、顔見知りを増やす大切さなど、市民が関心を持ち参加してくれるような指導をしている。

Q：健康で楽しく暮らせるために、「適度な運動」・「適度な食生活」が重要だと思いますが、どのような取り組みを行っているのか。

A：適度な運動については、「1日+10分動くことからはじめよう」と言うことで身体を動かす機会や環境は、身の回りにたくさんあります。普段の生活の中で

楽しんできそうな、10分を見つけて動かすように指導をしています。

また、適度な食生活については、偏った食生活や、食事量が減ってくるのが原因で、知らず知らずのうちに体重が減ってきた、食欲がわからない、肉、魚、卵をあまり食べていない人は要注意ですということから、食事を作るのが大変になってきたら、配食サービスや外食、お惣菜を上手に活用するなどの指導を行っている。

10 【行政視察所感】

鎌倉市は、「鎌倉市健康福祉プラン」を策定し、地域福祉と健康づくりを目指してきました。平成28年に～健やかで心豊かに暮らせるまち～「鎌倉市健康づくり計画」を策定し行政における多面的角度から健康づくりに市民参加を促しております。特に松尾市長の健康づくりへの積極性が大きな推進力を感じます。また、鎌倉市は「食をとおして豊かな環境、健やかな心身を地域で育むまちづくり」を基本理念として健全な食生活に取り組み、食をとおしての健康づくりを後押ししています。市民一人ひとりが子供の頃から、自分のからだや心に目を向け、健康づくりに、取り組んでおり、全国でも、毎年、寿命・健康寿命が上位の市です。

平均寿命が決して高くない釜石市において多岐にわたり取り組むべき課題を教示されたような気がしました。釜石市民の健康長寿のために行政と議会が力を合わせ、健康づくりに取り組むことが急務であることを痛感し有意義な視察でした。

11 【その他】

別添写真・資料参照

山武市における視察研修風景



議場にて



タブレットを使用した研修風景



山武市の皆さん

鎌倉市視察風景

